



2022 年 1 月 7 日
飯野海運株式会社

飯野海運株式会社代表取締役社長當舎裕己は、1 月 4 日に飯野海運グループ全社員に向けて 2022 年年頭挨拶を行いました。

2022 年新年挨拶

皆さん、新年明けましておめでとうございます。2022 年の仕事初めに当たり、皆様に一言ご挨拶申し上げます。

コロナ禍での安全への取り組み

新型コロナウイルスの感染は、ワクチンの接種が進んだことで、一時は収束へ向かうかと思われましたが、次々に変異株が現れ、東京での新規感染者が 100 名を超えるなど油断できない状況が続いています。そのような環境下、陸上社員は在宅勤務と出社勤務を併用し感染防止を図りながら業務の質を落とすことの無い様に努め、海上職員は乗下船時において隔離を余儀なくされる等、制約の多い中で感染対策と安全運航の両立に努められました。不動産業においては昨年 6 月竣工の日比谷フォートタワーを含むオフィスビルや商業テナント、貸ホール業やスタジオ業で徹底した感染対策で安全で安心な空間の提供を継続できたかと思えます。この場を借りて改めて皆さんのご尽力に厚く御礼を申し上げます。本当にお疲れ様でした。そしてありがとうございました。

2022 年も引き続き安全・確実な業務遂行を宜しくお願い致します。

中期経営計画 ～ 2 年目の進捗 ～

飯野海運グループは 2020 年から現中期経営計画 Be Unique and Innovative.: The Next Stage を進めています。昨年の創業記念日に皆さんに伝えたメッセージは「変革をためらうな」でした。ここで昨年の進捗状況を振り返ってみましょう。

3 つの重点強化策のうち、“グローバル事業の更なる推進”では、8 月にドバイに現地法人 IINO LINES GULF DMCC を設立しました。中東は当社ケミカル船事業のホームグラウンドであり、7 名の駐在員がより顧客に近い場所で関係強化や新規事業開拓を行い、採算性向上を目指しています。環境に関連した新規案件が増加している欧州における当社営業拠点の IINO UK を増強し、現在 3 名の役職員が活躍中です。東京に於いてもグローバル事業の推進本部として事業戦略部を立ち上げました。海外拠点を統括する海外戦略担当と新規事業を企画・調査・立案する事業開発推進部を統合し、内外の新たな事業分野を切り拓くミッションに挑戦しています。

次の重点強化策“サステナビリティへの取組み”におけるキーワードは「アンモニア」です。昨年 9 月には 23,000m³ 型新造アンモニア運搬船で三井物産殿向けの定期用船契約を獲得しました。本船は 2023 年末に現代尾浦造船で竣工予定、米国船級協会 ABS によるアンモニア燃料船化の基礎認証を得ています。飯野海運グループとしてのアンモニア燃料の実用化に向けた挑戦

の初めの一步と位置づけています。アンモニアは、化学原料や肥料原料に留まらず、燃焼時に二酸化炭素を排出しない、ゼロエミッション燃料として、更には水素の輸送手段として注目されています。燃料としてのアンモニアは、毒性が強く取扱いが難しく、一酸化窒素発生防止の為の燃焼効率向上など技術的な課題も多く残っていますが、その解決へ向けて飯野海運グループの知見、経験を活かし、チャレンジ精神を発揮できる絶好の機会です。営業面においては、幅広い顧客に対し、ガス、ケミカル、ドライといった各営業部門の枠組みを超えた複合営業体制の確立を目指している当社にとって原料にも燃料にもなるアンモニアは持ってこいの輸送貨物です。

このようにアンモニアは当社にとって様々な将来可能性を秘めている貨物であり、燃料です。その取組みは地球環境の改善につながり、飯野海運グループにとって、経済的価値と社会的価値の両方を創造する事業になり得ます。2022 年もグループ全体で引き続き取り組んで行きます。

DX（デジタルトランスフォーメーション）推進

次に、現中期経営計画で掲げている DX 推進の進捗をご紹介します。2030 年を目途として、業務改善、安全運航、ESG 推進サポートの実現を目的として DX を推進します。そのファーストステップであるデジタル化の基盤整備の形ができてきました。

今月から、ケミカル船の新たな運航管理システムの本格稼働が始まります。ケミカル船部門の東京、シンガポール、ドバイの 3 拠点がリアルタイムで情報を共有できるようになり、営業力強化と業務効率化につながります。

4 月からは経理において証憑電子化システムが導入される予定です。紙で回付されていた帳票が電子化されます。

加えて春先から船舶管理会社のイイノマリサービスで船舶管理統合パッケージシステムが順次導入されます。今まで個々に分散していたデータを一元集中管理します。船陸間のやり取りは基本的に従来のメールベースから、システム内で完結します。これらにより、船舶管理の更なる質の向上、ひいては当社の基盤である安全運航業務へ更に集中できる環境が整います。

2022 年も DX をどんどん進めます。

従来の方法に囚われずに、「こんなことができないか、あんなこともやってみよう。」と変革する意識を持ち、仕事のやり方を変えましょう。

新しい中期経営計画の策定に向けて

さて、2022 年は現中期経営計画の最終年度となります。

「時代の要請に応え、自由な発想で進化し続ける独立系グローバル企業グループを目指す。」IINO VISION for 2030 を再認識し、飯野グループの経済的価値を高めると同時に社会的価値を創造する CSV(CREATING SHARED VALUE)を推進していきましょう。

そして今年は今中期経営計画を推進すると同時に、2023 年から始まる新しい中計を策定する 1 年となります。この 2 年間で社会は大きく変わりました。時代の要請を見極め、どうやって経済的価値と社会的価値を両立させるか、個人、各部、各社、各世代の皆で積極的に考え、話し合ひましょう。

2022 年は飯野海運グループの進む針路を決定するための大切な 1 年になります。「変革をためらうな」、このメッセージは今年も変わりません。2030 年、更にはその先の 2050 年を見据え、今やるべきことは何かを議論し新しい中期経営計画と一緒に練り上げましょう。

結びにあたりまして、
グループ全船の安全運航、
所有ビルの安全無事故、
グループ各社の一層の繁栄、
グループ役職員の皆様ならびにそのご家族のご健勝と
ご多幸を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。

以 上